児玉　康比古 議員

（一問一答方式）

①防火水槽について
②上須戒地区の梨園について
③地域の学び事業について
④公共施設の予約システム等について

防火水槽の維持管理と必要性について

問　現在は消火栓も整備されており、若宮地区では防火水槽が使用されることはなくなった。現在は消防団が定期点検を行っているが、負担軽減のため見直しを行う時期が来ているのではないか。

答　防火水槽による消防水利は、消防庁が示す基準により、常時使用できるよう管理されていなければならず、定期的な水位等の点検が必要であるため、消防団員の方々には、車両や資機材と併せて点検を実施いただいています。しかしながら、消防庁が示す消防水利の基準によると、消防水利は消火栓のみに偏することのないよう考慮し、地域の実情に応じて計画的に配置するとされており、令和６年７月12日付の消防庁からの通知では、能登半島地震において、地盤の隆起等により水道管が破断されて消火栓が使用不能となり、消火活動が困難な状況であったことを教訓に、防火水槽も必要であるとされています。また、隣接する複数の消火栓を一度に使用した場合には、水圧が低下するなど消火活動に支障が出ることとなります。

本市では、一昨年の林野火災での経験を生かし、今後発生が予測される南海トラフ地震に備え、これまでと同様に消火栓と防火水槽をバランスよく整備していきたいと考えていますが、今後も引き続き消防団と相談しながら、順次見直しをするべきところは見直しを行っていきたいと考えています。

上須戒地区の梨園における後継者問題について

問　上須戒地区では梨の生産農家高齢化も進んでいる。地域おこし協力隊の募集と移住希望者への積極的な広報を行うなど、後継者募集の方策について伺いたい。

答　市では農業後継者や担い手不足の問題を市の農業全般の喫緊の課題と捉えています。地域おこし協力隊制度の活用をはじめ、令和７年度当初予算では市内の県認定農業研修施設での研修受講の際に研修生に対して交付される国の就農準備金に市独自の上乗せ補助を計上するなど、他自治体より手厚い支援や研修施設の整備を図ることで、新たな担い手の確保、育成を図っていくこととしています。

上須戒地区の梨園の後継者募集についても、梨農家の方々の意向を聞き、担い手育成や事業継承に御理解、御協力をいただけるようであれば、現在在籍する農業部門の地域おこし協力隊と情報共有を図りつつ、希望する隊員には梨農家による研修などの活動も行うほか、梨などの品目を指定して就農に特化した地域おこし協力隊の募集も検討していきたいと考えています。

公共施設の予約システムの案内と利用状況について

問　２月３日から施設の予約システムの運用が始まったが、利用団体への事前連絡はなく、ホームページでの利用案内も分かりにくく感じる。これまでにどの程度システムの利用があったのか。また、利用者の登録数を伺いたい。

答　新たに運用を開始したえひめ施設利用予約システムについては、市の公式ホームページや広報おおずにてお知らせをしていますが、利用開始に当たり、周知の方法や周知内容等、十分ではなかった点があったことは反省すべき点があると考えています。

現在使用されている皆様がコミュニティセンター窓口に来館された際には、システムのお知らせや利用者登録の手続等を記載したチラシをお渡しするとともに、センター職員が一緒に利用者登録や予約を行うなどの対応をしています。

この１か月間の予約システムの利用状況は、コミュニティセンターに関しては、予約されている件数は２月末現在で６件、利用登録団体等件数は５件、体育施設の利用については、予約されている件数は０件、利用登録団体等件数は16件となっています。